

飯伊地区 産業経済動向

No.566 2026/5
(8.6.25 発行)



飯田信用金庫

IIDA SHINKIN BANK

しんきん南信州地域研究所

<https://www.iidashinkin.co.jp/>

〒395-0044 飯田市本町1-2

TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132



Contents

表紙 写真：リニア駅工事現場で2箇所目に開設された「いいだ」リニア展望台

(飯田市上郷飯沼・6月10日撮影)・・・P1

製造業 景況DIはプラス圏も前月からは悪化。先行きは景況感好転を見込む声が増加・・・P2

建設業 5月の公共工事は前年比増加。4月の住宅着工は前年比18%減少・・・P4

商業・サービス業 景況DIは前月から大幅に悪化。卸売業で景況感悪化の声が多い・・・P5

しんきんリニア・三遠南信対策室です リニア中央新幹線についての定点観測アンケート(2)

リニア長野県駅(仮称)と2次交通についての意識調査 ～2次交通への期待と不安は～・・・P6

飯伊地区全産業景況DIの推移・主要経済指標・・・P10

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ(<https://www.iidashinkin.co.jp/>)に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIはプラス圏も前月からは悪化。先行きは景況感好転を見込む声が増加

当月の製造業の業況判断指数（DI）はプラス9.4で、前月から17.9ポイント低下。翌月予測はプラス21.2で、前月から21.2ポイント上昇。当月は、機械製造の電気・精密・光学分野や半導体分野で景況感好転の声が多く聞かれたが、食品製造では原料・包装資材の高騰の影響からか景況感悪化の声が複数聞かれ、全体での指数はプラス圏を維持したものの、前月からは悪化した。先行きは、食品製造では悪化見込みの声が複数聞かれるが、機械製造では好転見込みの声が多くなり、全体での指数はプラス圏となった。中東問題による原材料等の値上がり懸念する声は多いが、供給そのものは改善してきたとの声も聞かれた。

主な業種の動き

●電気・精密・光学

- ☑受注、販売… 販売、受注の前月比は業者により増減分かれるが、横ばい～増加の声が多い。先行きについても、販売は横ばい～増加で、減少を見込む声はなかった。
- ☑景況感…… 当月は業者により見方が分かれるが、好転の声が多い。先行きも同様。

〔企業からのコメント〕

- ・「受注は好調を維持。仕入部材の値上がりが頻繁に起こっており、価格転嫁による見込みの提出回数も増えるため、地味にリソースを取られている。切削工具（超硬）の価格が6月より大幅に上昇している」「価格改定前の買い占めの動きがあり、一部手に入らない工具等が出てきている。潤滑油は、まだ入りにくい状況ではあるが、緩和の方向に進んでいると聞いている」
- ・半導体が徐々に動き出し、全体に活性化していくと期待している。

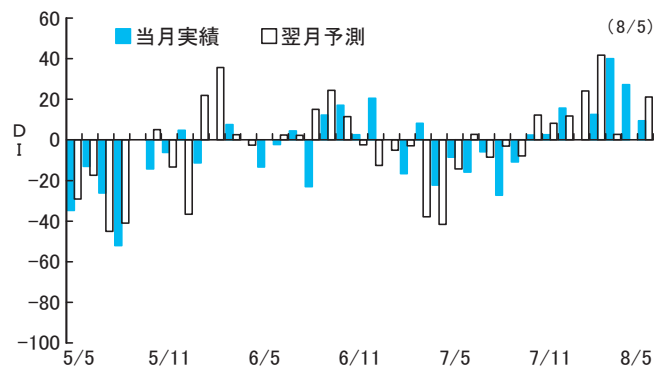
●半導体、液晶製造装置向け機械部品

- ☑受注、販売… 前月比は販売は業者により増減分かれ、受注は横ばい～増加。販売の先行きは横ばい～やや増加という。
- ☑景況感…… 当月の景況感は横ばい～やや好転。先行きも同様で、悪化を見込む声はなかった。

〔企業からのコメント〕

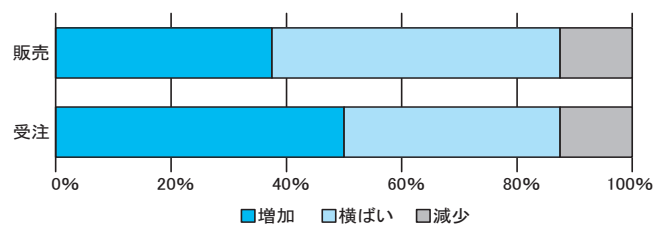
- ・「AI需要向けの設備投資が過熱し、取引先も対応できないほどの引き合いがある。受注残を考慮すると、年度内は同水準の仕事量が継続する見込み。5月は連休のため前月比の売上は減少」「年明けからの回復傾向に拍車がかかり、3月以降は受注量が増加傾向で7月までは継続する。先行きの不透明感はあるが、高い確度で継続が期待できる」
- ・「生成AIの爆発的な普及に伴う先端投資を追い風に、半導体製造装置市場は堅調な拡大局面を迎えている」「AI関連が好調であることが半導体市場好調の要因であるが、長かったシリコンサイクルの谷が終わり、本格的な回復局面を迎えることを期待」
- ・需要急増に対する嬉しさの反面、設備投資や人員確保などの利益圧迫要因が中小企業としては厳しい状況になってきている。自動化や半自動化等への舵切りが必須となってきている。
- ・半導体産業でも、企業によって好不調の差が顕著に表れているとの話を聞いた。

飯伊地区景況DI（製造業）

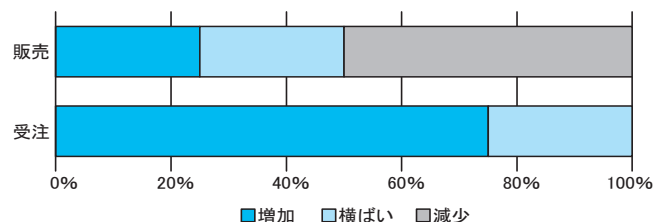


【DI（ディフュージョン・インデックス）】とは…
景気に関する投票を指数化したもので、全体の回答数を分母、良い、やや良いとの回答数を分子にした割合から、全体の回答数を分母、悪い、やや悪いとした回答数を分子にした割合を引いた数値。
「先月と比べて景気が良い」との回答が多ければプラス、「先月と比べて景気が悪い」との回答が多ければマイナスとなる。

電気・精密・光学向け部品前月比回答割合

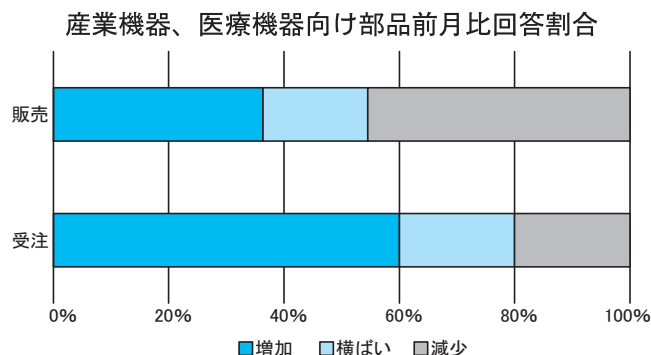


半導体、液晶製造装置向け部品前月比回答割合



●産業機器、医療機器向け等機械部品

- ✓受注、販売… 受注、販売の前月比は、ともに業者により増減分かれるが、受注は増加の声が多い。販売の先行きについては横ばい～増加で、横ばい見込みよりも増加見込みの声が多く聞かれる。
- ✓景 況 感…… 当月は業者により見方が分かれるが、先行きは横ばい～好転で、悪化見込みの声は聞かれなかった。

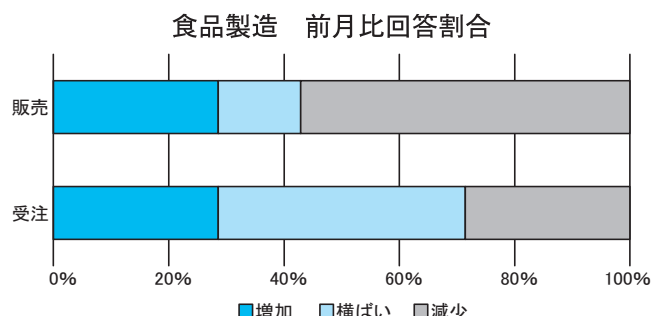


[企業からのコメント]

- ・「5月の連休の影響で前月比は売上減少」「半導体製造装置に関する部品の注文がかなり活発になっている」
- ・中東問題の影響もあるが、製造業ではレアアースの規制の問題の方が直近の影響を感じる。扱っているものにもよるが、仕入価格が2～3倍という話も聞く。
- ・防衛関係や半導体は良くなってきているようだが、自動車関連はまだまだ混んとしている。

●食品製造（漬物、半生菓子、菓子原料、その他食品）

- ✓売 上…… 菓子の前月比は業者により増減分かれ、先行きはやや減少～横ばい。食品全体では前月比減少の声が多いが、先行きは横ばい見込みの声が多い。
- ✓景 況 感… 当月、先行きともにやや悪化～横ばい。当月、先行きともに横ばいの声がやや多いが、前月と同様に好転の声はなかった。



[企業からのコメント]

- ・「小売り、業務筋ともあまり良くない。物価高の影響」「5月の連休明けは落ち着いている。食品の値上げが続きそうだが、消費動向が心配」
- ・「原材料の値上げ率が大きすぎて、全てを価格転嫁することに危機感がある。業界としての値上げはなさそうなので、独自で進めていくしかないと考えている」「半生菓子業界は、各社値上げに動いている」「値上がりは包装資材だけでなく、原料も含め全般に及んでいる。包装・原料の値上げは早いため、製品価格への転嫁が遅れそう」

●水引製品、冠婚葬祭・祝儀用品、正月・盆用品

- ✓売 上… 前月比はやや減少～横ばい、先行きは横ばい～やや増加。景況感は当月はやや悪化～横ばい、先行きは業者により見方が分かれる。

[企業からのコメント]

- ・5月は休みが多く売上が伸びなかったが、商品値上げをしたため利益は確保した。神社関係の水引を出荷しているが、多くは望めない。
- ・祝儀全般は落ち込んでいたが、法要は少々復活してきている。

●上記以外の製造業

- ✓建築用金属製品… 販売は前月比は増加、前年比ではやや増加。先行きは減少見込みという。先行きの景況感は横ばいを見込むという。
- ✓自動車向け部品… 販売は前月比やや増加、先行きは横ばいを見込む。景況感は、当月はやや好転、先行きはやや悪化見込みという。
- ✓印 刷…………… 販売は前月比、前年比ともに減少。原材料単価は上昇が続いているという。

[企業からのコメント]

- ・前月比、前年比ともに売上減少。受注の件数が大きく減ってしまった。色々な要因はあると思うが、印刷製品自体の減少傾向に歯止めがかからない。これからの時期（6～8月）は仕事量が減ってくるため、値上げ対策も含め、受注に注力していくしかない。
- ・「封筒メーカーからの値上げの申し出が出てきた」「全ての材料の仕入価格が高騰しており、仕事量が少ない中で値上げ交渉をせざるを得ない」
- ・「受注を増やすための営業人員増を検討中。また、溶接作業員の欠員補充が必要」「ハローワークを通じて求人中。会社見学者はあるものの、採用には至らず」

建設業

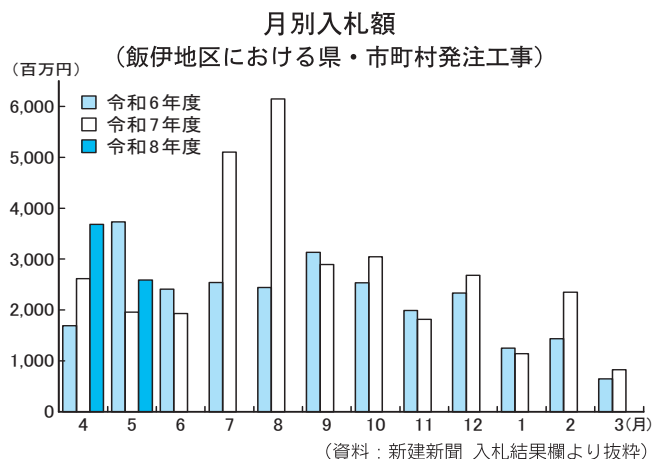
官公需

概況 5月の公共工事入札金額は前年比で32.5%増加、一昨年比では30.5%減少

✓公共工事入札額… 当地区における当月の県、市町村発注工事の入札額合計は、25.9億円（5月15日調査時点）。前年に比べ32.5%増加、2年前との比較では30.5%減少。

✓景況感…………… 当月はやや悪化～横ばいで、横ばいの声が多い。先行きは業者により見方が分かれるが、こちらも横ばい見込みの声が多い。

✓原材料価格…………… 当月は横ばい～上昇で、上昇との声が多い。先行きも同様で、下降見込みの声はない。



[企業からのコメント]

- ・「新年度工事の発注がなかなか進まない」「大型物件はなし。新年度工事の発注までは下請けや民間工事による受注を進めていく」
- ・「ホルムズ海峡の関係で、資材が入りづらくなっている。またそれとは別かどうか不明だが、材料費の値上げがいろんな業者より届くようになった。材料がこのまま入らないことが続くようなら、工期までに工事が完了するか不透明な状況」「塗料等の不足が始まっている」
- ・「相変わらずの人員不足」「人員募集するも、不足の状態」「現状の人員は高齢化が進んでいる。若年層を増やしたいが困難」「技術者の不足が続いている」

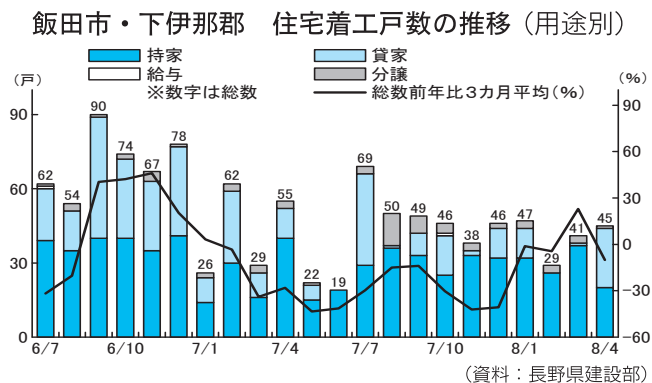
民需

概況 令和8年4月の住宅着工戸数は45戸で前年比18%減少。
貸家が増加も、持家が半減し、2か月ぶりの前年比マイナス

✓住宅着工戸数… 当地区の4月の住宅着工戸数は45戸。前月比10%増、前年比では18%減。持家の戸数は20件で前年（40件）から半減。貸家は24件で前年（12件）から倍増。分譲は1件で、前年（3件）から減少。

✓景況感…………… 当月はやや悪化～横ばい、先行きは業者により見方が分かれる。

✓原材料価格…………… 当月は横ばい～上昇、先行きやや上昇～上昇で、下降との声はない。



[企業からのコメント]

- ・ナフサショックでの断熱材やプラスチック製品の納期遅れは解消されないで、混乱が続いている。他の資材も単価が上がっており、金利も上がっていくと思うので、住宅需要がさらに落ち込まないか心配。

建設資材等

概況 5月の生コンの売上は前月比、前年比ともに減少。
骨材は前月比で減少、前年比は減少～やや減少。

✓生コン … 売上は前月比、前年比ともに減少。

✓骨 材 … 売上は前月比では減少、前年比は減少～やや減少。

[企業からのコメント]

- ・5月の主な出荷はリニア関連工事、三遠南信工事、バイパス工事、発電関連工事、床固工事等に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は当月出荷量の5割弱。
- ・「一般建設工事の需要が少ない。リニア生コンの需要が緩やかなのでトータルとして需要は少ない」「5月は仕事が大きく減少。下伊那はリニア工事があるのでまだいい方だと聞いている。その恩恵がある会社とそうでない会社との開きが大きい」「生コン向けの骨材出荷が減少した」「三遠南信小嵐トンネル関係の工事も公示され、今後に期待」「リニア駅周辺ではそれなりに動きがあるものの、全体としては静かな月だった。多少の地域差はあるものの、この状態が続くそう」
- ・ナフサ不足の影響で、材料の価格が上がった。

商業・サービス業

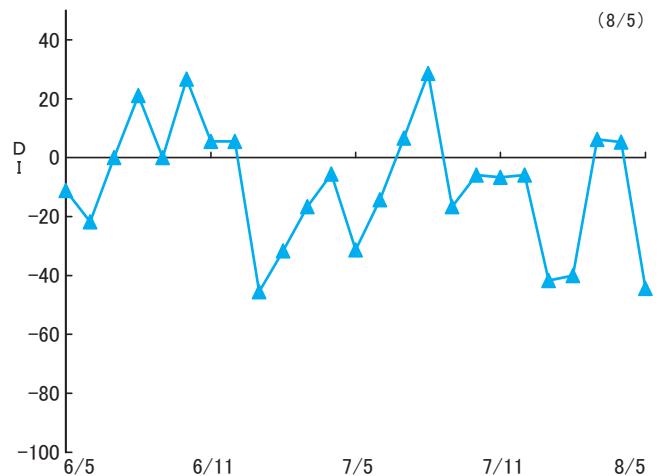
概況 景況DIは前月から大幅に悪化。卸売業で景況感悪化の声が多い

当月の商業・サービス業の業況判断指数（DI）はマイナス44.4で、前月から49.7ポイント低下。

当月は、小売業、卸売業、飲食業で景況感が悪化したとの声が複数聞かれた。特に卸売業で景況感悪化の声が多く、ナフサ不足による原材料の値上がりや不足という声が複数寄せられた。全体の指数は前月と比較して大幅にマイナスとなった。

次月以降では、卸売業、宿泊業の一部に景況感好転を見込む声が聞かれるものの、全体としては景況感悪化を見込む声が多くなっている。長引く物価上昇による影響はもとより、中東問題による原材料の価格上昇や供給不安による今後への影響を懸念する声もある。小売業や運輸業では、各種値上げが消費控えにつながっているのではとの指摘も聞かれた。

商業・サービスDI



主な業種の動き

●小売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。景況感はやや悪化～横ばい

✓売上 … 前月比は業者により増減分かれる。前年比ではやや増加。

✓景況感 … 当月はやや悪化～横ばい。先行きも同様。

〔企業からのコメント〕

- ・来店客の来店頻度は減少傾向が続いており、客数は減少が続くが買上げ点数と客単価は増加が続いている。来店客数が増加に転じればさらなる売上上昇が見込める。
- ・5月の売上は昨年同様に低迷傾向。6月から食品等も値上げがあるようで、消費の買い控えが心配。
- ・ゴミ袋の在庫がない。ゴム手袋なども含め、まとめ買いの影響があるように感じる。

●卸売業 概況 売上の前月比は業者により増減分かれる。

景況感は、当月は悪化～横ばい、先行きは業者により見方が分かれる

✓売上 … 前月比で青果は増加。食肉、電設資材はやや増加。建設資材は減少～やや減少。食品は減少。

〔企業からのコメント〕

- ・野菜は、地物の主力であるキュウリは入荷昨年並み、価格は高い。昨年は価格が落ち着いたキャベツやレタスは大幅な高値となり、一方で大根や人参などの根菜類は昨年を下回る売上。野菜全体では入荷やや減、価格はやや高となった。果実は、出荷が始まった梅は、好調だった昨年比で入荷大幅減。主力の苺は価格高も入荷が減少し、シーズンを通して品薄。雑柑橘類は売上好調だったが販売の始まったスイカは入荷が大幅減となり、果実全体では売上減少の厳しい販売状況となった。
- ・夏本番を前にエアコンなどの受注は増加しているが、「施工技術者の深刻な不足」「ナフサ不足：塩ビ/樹脂系資材不足」というリスクが浮き彫りになっている。施工枠の確保や代替資材の提案まで踏み込まなければ、商機を逃してしまう。
- ・ナフサショックの影響により、肉を入れる真空パックの仕入値が値上がり。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 売上の前月比は、飲食業、宿泊業ともに業者により増減分かれる。

景況感は、飲食業はやや悪化～横ばい、宿泊業は業者により見方が分かれる

✓売上 … 前月比は飲食業、宿泊業とも業者により増減分かれる。運輸業はやや減少。

〔企業からのコメント〕

- ・「売上は悪くないが、肌感覚での景気動向は少し悪い気がしている。特に食品関係の値上げが多く、料理業では値上げができない状況」「5月後半は良く売れた。テイクアウト注文、大口の注文もあった。ただ物価上昇の影響で景気が良いとは言えない」
- ・「花桃の開花状況が早まりゴールデンウィークまでもたなかった。しかしゴールデンウィーク中は状態を維持し、全体的には横ばいとなった」「花桃のシーズンとゴールデンウィークの時期は、人の流れはそれなりに多く感じた。その分、これから先の夏休みが始まるまでの間が非常に不安」「8月より、土曜日の宿泊代をアップさせる」「6月からの宿泊税が導入されることになり、その対応も完了した」
- ・タクシー売上は前年並みで推移しているものの、代行売上の減少が目立つ。物価高騰による一般消費者の利用控えが影響していると考えられる。また中東情勢の影響により、エンジンオイルの入荷量の制限が発生している。

リニア中央新幹線についての定点観測アンケート(2)

リニア長野県駅（仮称）と2次交通についての意識調査 ～ 2次交通への期待と不安は～

当研究所の定点観測「リニア中央新幹線についての意識調査」アンケートの令和7年度（8年3月）調査結果を前号に引き続き報告する。

1. リニア駅と2次交通についての意識を問う

本年3月16日、下伊那郡町村会がリニア中央新幹線長野県駅（仮称）周辺整備について2次交通などの意見交換が行われたとの報道があった。

町村会では事前に各町村へのアンケートを実施しており、同様の意識調査を今回の本誌アンケート調査において地域内外の皆さまにも実施することとした。アンケート項目は、下伊那郡町村会の承諾を得たうえで一部を引用しています。

2. 2次交通についての期待

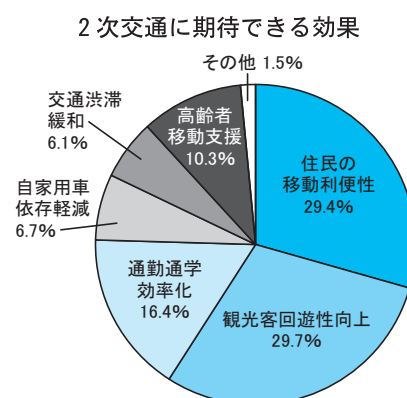
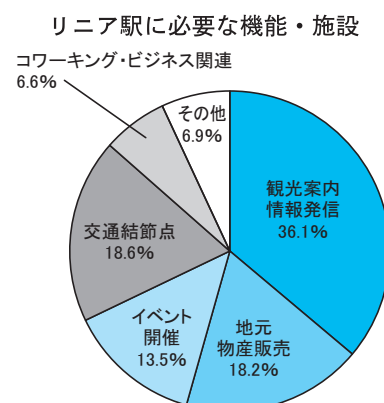
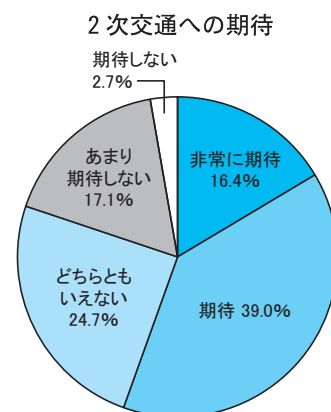
「Q 2次交通に期待しますか」については「非常に期待」16.4%、「期待」が39.0%となった。反面「あまり期待しない」17.1%、「期待しない」2.7%であり、「どちらともいえない」24.7%となり、まだまだ2次交通についてのイメージを持ちきれていないという状況ではないか。

これについて、本アンケートでお聞きした「Q リニア駅に必要な機能・施設」で、「交通結節点機能」は18.6%と「観光案内や情報発信機能」の36.1%に対し次点となり、「地元物産の販売機能」18.2%、「イベント開催」13.5%などなっていることと考え併せると、リニア駅を「道の駅」的に捉えているように思われる。

3. 期待できる2次交通の効果は観光面がトップ

「Q 2次交通に期待できる効果」（複数回答）については、「観光客の回遊性の向上」が29.7%でトップ。「住民の移動利便性」が29.4%で続く。以下、「通勤通学の効率化」16.4%、「高齢者の移動の支援」10.3%。「自家用車依存の軽減」6.7%、「交通渋滞の緩和」6.1%となっている。「その他」1.5%の中には「東京・名古屋のベッドタウン化」の記述があった。

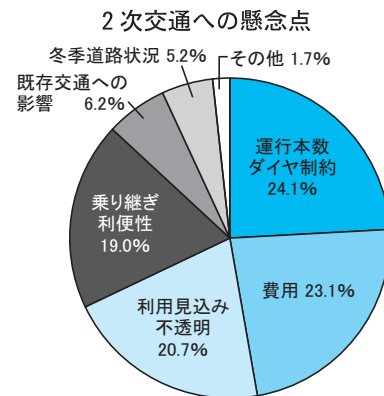
以上は、「住民の移動利便性」、「通勤通学」、「自家用車依存軽減」など、住民目線に立った項目が挙げられているものの、「観光客回遊性向上」という来訪者目線のものが真っ先に意識されているといえるのではないかな。



4. 「2次交通の懸念点」では2次交通への不安が

次に「Q 2次交通への懸念点は」（複数回答）では、「**運行本数やダイヤの制約**」24.1%、「**費用**」23.1%、「**利用見込みが不透明**」20.7%、「**乗り継ぎ利便性**」19.0%と、ほぼ同じ割合で挙げられた。これらはいずれもリニア駅が開業した際、2次交通が果たして十分なレベルで機能するかという不安が窺われるものとなっている。

当地域の交通環境を考慮した「**冬季道路状況**」は5.2%であった。

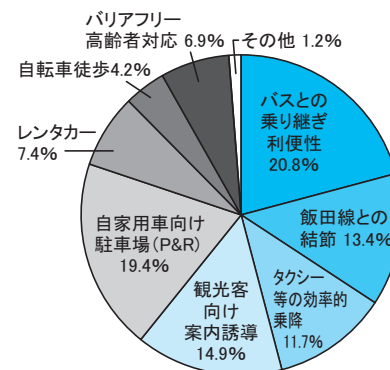


5. トランジットハブとして重視する機能について

「Qトランジットハブとして重視する機能」（複数回答）では、「**バスとの乗り継ぎ利便性**」20.8%。「**自家用車向け駐車場（P & R）**」19.4%、「**観光客向け案内機能**」14.9%、「**飯田線との結節**」13.4%、「**タクシー等の効率的乗降**」11.7%の順で同程度の割合となっている。これに続き、「**レンタカー**」7.4%、「**徒歩自転車**」4.2%が続く。「**バリアフリーや高齢者への対応**」期待は6.9%となっている。

2次交通の交通手段としては、「**バス**」と「**車（自家用車）**」がトップに並び、「**飯田線**」、「**タクシー**」それに次ぐという形になった。

トランジットハブとして重視する機能



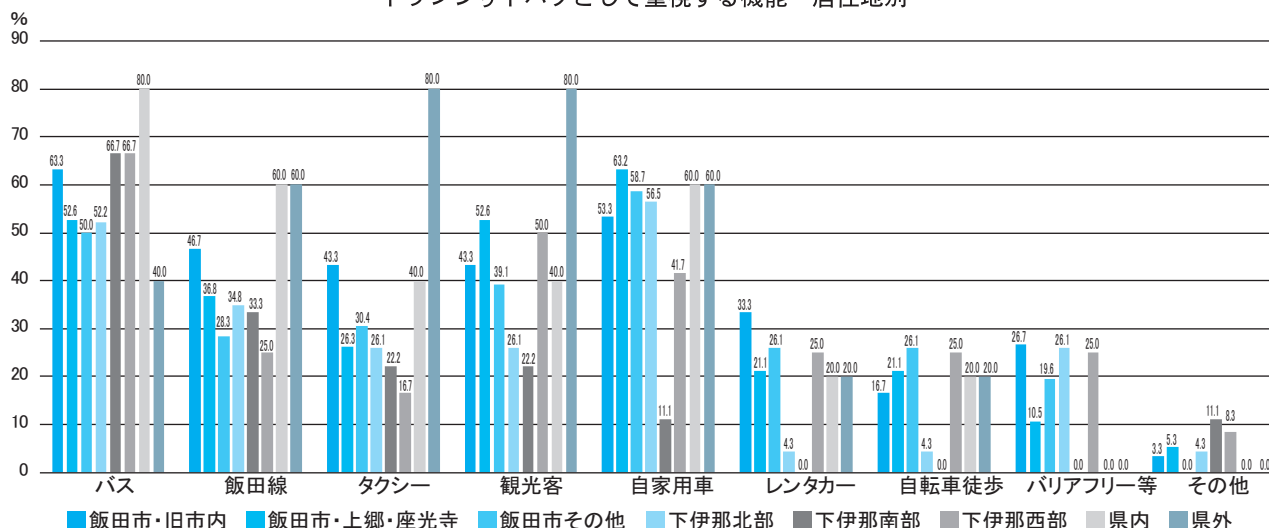
6. 「トランジットハブ」の居住地別による受け止めは

トランジットハブ機能についての期待度について、アンケート回答者の居住地による差異を見るため、居住地別にまとめた（下グラフ）。グラフでは複数回答で挙げられた項目数を居住地区分毎の回答者数で除した割合で表している。

これによると、交通手段で「**バス**」「**自家用車**」は全体として期待度が高く、居住地区別のばらつきが少ない。「**飯田線**」、「**タクシー**」、「**観光客**」は、地区により期待度に関きが見られる。「飯田市旧市内」は全般に期待値が高く、他地区がそれより低くなると見ることができるが、「**バス**」は「**下伊那南部**」「**下伊那西部**」が高くなっている。「**観光客**」については、リニア駅の地元「飯田市上郷・座光寺」と観光に注力している下伊那西部で高く出ている。

域外からリニア駅に来訪する立場である「**県内**」「**県外**」の区分では、共に高いのが「**飯田線**」と「**自家用車**」であり、「**バス**」は「**県外**」が高く、「**タクシー**」は「**県外**」が高く「**県内**」はそれほどではないことが分かる。

トランジットハブとして重視する機能・居住地別



「県内」「県外」は共に、「レンタカー」への期待は大きくなく、これは実際にリニアで長野県駅に降り立ち域内を巡るような立場の方々とはやや異なる集団に属するとも考えられるが、「県内」「県外」共に回答者数が少なく（共に5）、必ずしもアンケート結果が実際に反映していないことも考えられる。

7. 居住区分別に特性を考察

前項のグラフを、更に住居区分別に分解し、各区分（地区）の特性を考察する。

■「飯田市・旧市内」は、「バス」から「自家用車」まで。各項目押しなべて高い期待度が示されている。「レンタカー」「自転車徒歩」「バリアフリー等」もバランスが取れているといえる。

■「飯田市・上郷・座光寺」は、「自家用車」への期待が他を上回っている。続いて「観光客」が「バス」と並んで続いており、リニア駅の「お膝元」としてそれを意識したものといえないだろうか。「飯田線」は飯田市の他の区分や「下伊那北部」、「下伊那南部」と比べても高くはない。

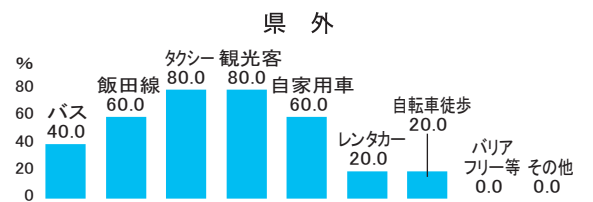
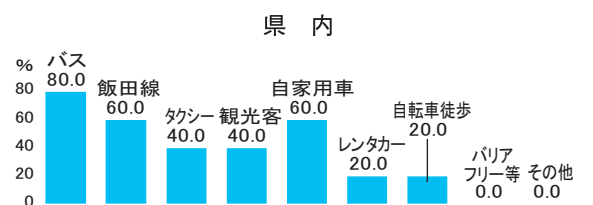
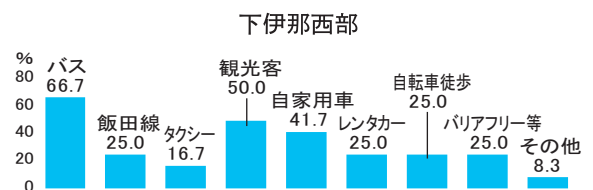
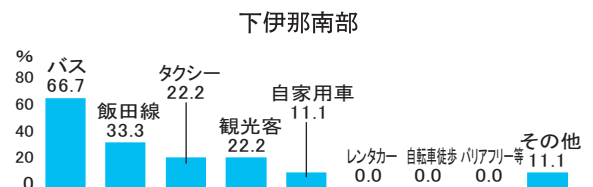
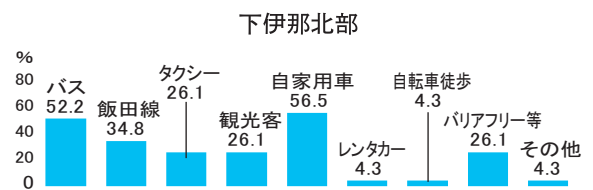
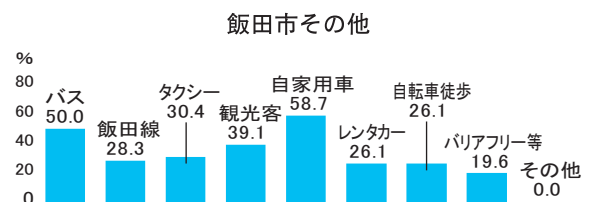
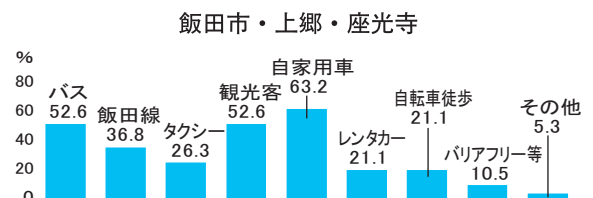
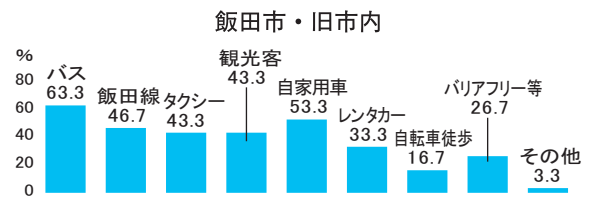
■「飯田市その他」は、「自家用車」が最も高く、「バス」については、飯田市の他区分や下伊那各区分の中で最も低い。飯田市の旧市内と上郷・座光寺以内の地区は飯田線やバス路線の恩恵に浴さない地区が含まれていることに由来するのではないか。

■「下伊那北部」は、「自家用車」「バス」に続く「飯田線」が「飯田市旧市内」、「飯田市上郷・座光寺」に次いで高い。町村会がリニア駅の飯田線との接続を提起する所以ともいえる。

■「下伊那南部」は「バス」が圧倒的に他を抑えている状況。下伊那南部は飯田線が基幹的な地域交通といえると思われるが、必ずしもそうっていない状況があると考えられる。

■「下伊那西部」は、「バス」が上位となっているが、「観光客」が「飯田市上郷・座光寺」について高いことが分かる。観光基盤の上に立って地域づくりに取り組んでいること、リニア開通後リニア駅と同地区との連携強化を模索していることなどが背景にあると考えられる。

■「県内」・「県外」は、前項で述べたように、域外からの来訪者の目線とすると、両者ではやや異なる様相を呈しているが、「バス」「飯田線」「タクシー」「自家用車」「観光客」といずれも期待度が高いと言え、自家用車（車）利用のし易さとともに、公共交通機関の適切な連携・接続が望まれているのではないか。



8. 「リニアと2次交通」・「リニアとまちづくり」などについてのご意見

以上。前項までは選択項目で回答いただいたものの集計であるが、「その他自由意見」として寄せられたアンケートの内容をできるだけ原文のままお示しする。

■ リニア駅と2次交通

- ・飯田線と結節したところで、1時間に1本と極めて不便な状況であり、都市に行くのに駐車場が安いことで利用される岐阜羽島駅のような駅になるのでは。
- ・リニア長野県駅がトランジットハブになり得とは思えない。100年後とかなら。
- ・観光、ビジネスなど様々なニーズを持った多数の乗降客見込まれる。新しい交通網の整備。
- ・飯田市旧市内、飯田駅につながる交通の利便性を考えなければいけない。
- ・新しい交通がもたらす影響は未知ではありますが、それを最大限にするため多方面からの意見を集約し、良いものになることを期待します。特に柔軟な発想がある小学生から大学生等の意見を。
- ・現状の交通手段、制度に縛られすぎている。もっと未来を見て自動運転の世の中を想像しながら交通網を考えてないと後手になる。

■ 駅周辺整備

- ・周辺整備は整備して終わりではない。整備を進めながらも常に収益性を考え、民間が参加可能なこと、維持していけることを考えなければならない。
- ・長野県の窓口駅として、公園やイベント広場は必要ない。県内観光にアクセスできる仕組み、商業施設、レジャー施設、移住を邁進するための住居や企業向けオフィスなど雇用を促進し、地元の若者が飯田市にとどまり地域発展の中心になる駅前開発を強く希望する。
- ・自然エネルギー（太陽光発電、グリーン水素利用等々）の近代化設備・装置を活用、空飛ぶクルマの発着場、ドローン観光のスタート、日本のシリコンバレーを目指したAI関係の工業団地など。
- ・観光、ビジネスなど様々なニーズを持った多数の乗降客が見込まれる。新しい交通網の整備、宿泊施設、ビジネス拠点設置と、多額の資金負担が発生するが、将来長野県南部エリア発展のため、大胆な政策、施設整備を期待します。

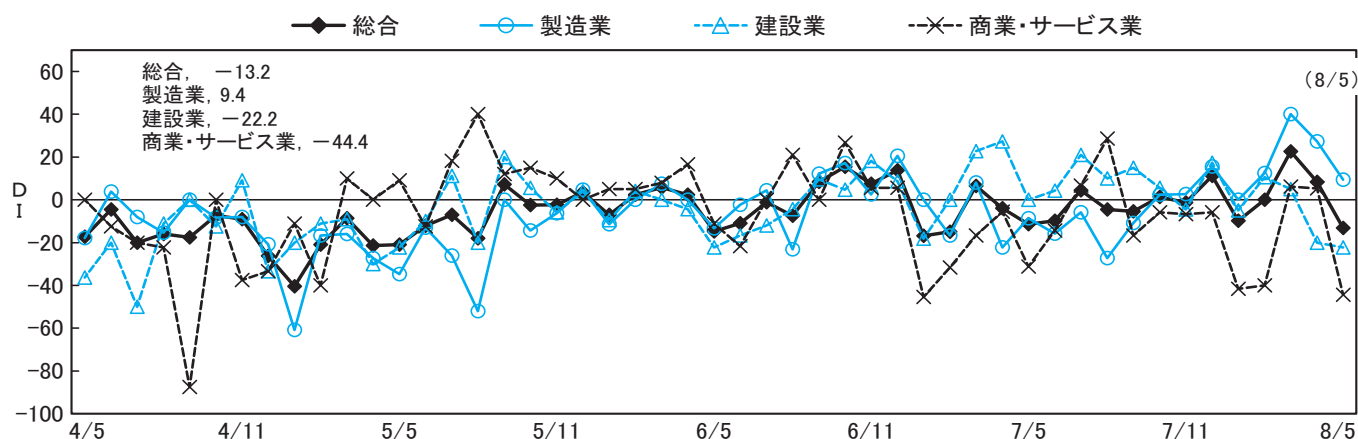
■ リニアとまちづくり

- ・当初よりリニア開業が大きく遅れることとなり非常に残念ではあるが、その時間を利用してより良い魅力ある資源の磨き、地域づくりなどいろいろとやっていたいいるようですので、我々は地域内でのことをしっかり検討し万全を尽くしていくことが大切と考えます。
- ・都心部からの移住者を迎え、飯田市へ住居を構えていただき、通勤や通学をリニア利用してもらえような新しいライフスタイルを推進して欲しい。
- ・せっかくリニアの駅が来るので、世界中からの成功例を集め、地域の人口が増え税収が増えるような環境づくりや施策を考えてほしい。
- ・人口流入、経済発展の起爆剤として大いに期待しています。一方で、地元住民には工事の進捗状況に加え、計画の全体像についてより丁寧な説明が必要であると考えます。
- ・せっかくの機会ととらえて南信に何ができるか、何が必要かを考え、重要な事項を優先して行ってほしい。何でも作ればいいではなく、本当に必要なものを。
- ・この機会を逃すと地域の発展はない。思い切った整備と投資を期待する。
- ・地域の不変的資源（歴史、文化、景観）を活かす。個々の自治体ではなく広域で各自治体の特色を絞り込み取り組む（ベンチマーク）。飯伊の魅力を再度見直す必要を感じます。
- ・観光地へのアクセスに期待することは良いが、魅力ある観光地であればアクセスが良くなくても多くの観光客が訪れることを念頭に進めるべき。

（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

飯伊地区全産業景況 D I の推移

飯伊地区景況 D I (本誌調査)



飯伊地区主要経済指標

主 要 指 標		実 数	前 月 比	前年同月比	前々年同月比	令和元年同月比
倒 産 件 数 (負債総額1千万円以上)	県 内	12 件	(前月 5 件)	(前年同月 9 件)	(前々年同月 13 件)	(令和元年同月 4 件)
	飯 伊	0 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)	(前々年同月 1 件)	(令和元年同月 0 件)
住 宅 着 工 戸 数 (飯田市、下伊那郡 総数) (4月)		45 戸	9.8 %	△ 18.2 %	△ 37.5 %	△ 11.8 %
有効求人倍率 (パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内) (4月)		1.16 倍	(前月 1.21 倍)	(前年同月 1.33 倍)	(前々年同月 1.33 倍)	(令和元年同月 1.29 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新 車	1,774 台	△ 19.7 %	0.6 %	5.7 %	△ 20.7 %
	中古車	747 台	△ 12.3 %	0.4 %	△ 4.5 %	7.2 %
軽自動車新規登録台数 (全国軽自動車協会連合会)	新 車	3,125 台	△ 0.9 %	△ 6.4 %	5.6 %	△ 20.7 %
	中古車	1,212 台	△ 31.4 %	△ 5.6 %	△ 7.9 %	1.0 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	99,673 台	5.8 %	△ 0.6 %	1.2 %	△ 15.4 %
	出	99,424 台	6.7 %	△ 0.9 %	1.2 %	△ 15.9 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	54,317 台	2.2 %	△ 0.2 %	△ 1.3 %	△ 31.9 %
	出	51,807 台	2.8 %	1.5 %	△ 2.7 %	△ 31.0 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	13,989 台	△ 43.8 %	△ 10.0 %	7.3 %	△ 44.5 %
	出	13,999 台	△ 55.0 %	△ 19.4 %	14.2 %	△ 49.0 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	50,512 台	△ 9.1 %	△ 4.5 %	△ 1.0 %	5.9 %
	出	49,390 台	△ 12.9 %	△ 7.2 %	△ 5.2 %	7.2 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	47,530 台	15.6 %	5.3 %	13.2 %	— %
	出	48,029 台	13.4 %	6.3 %	13.4 %	— %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		103 件	8.4 %	△ 16.3 %	△ 18.9 %	△ 28.5 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		8 件	(前月 2 件)	(前年同月 1 件)	(前々年同月 10 件)	(令和元年同月 4 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	24,259 人	18.9 %	3.3 %	10.7 %	△ 13.2 %
	飯田～名古屋	15,346 人	12.2 %	5.7 %	11.6 %	△ 19.2 %
	飯田～長野	5,406 人	9.4 %	4.2 %	27.0 %	△ 45.5 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	19,822 人	13.6 %	6.1 %	9.4 %	△ 12.4 %
市内循環バス乗車人数	左回り	3,058 人	△ 2.0 %	7.0 %	16.2 %	△ 10.0 %
	右回り	3,022 人	△ 1.6 %	4.7 %	17.5 %	△ 17.7 %